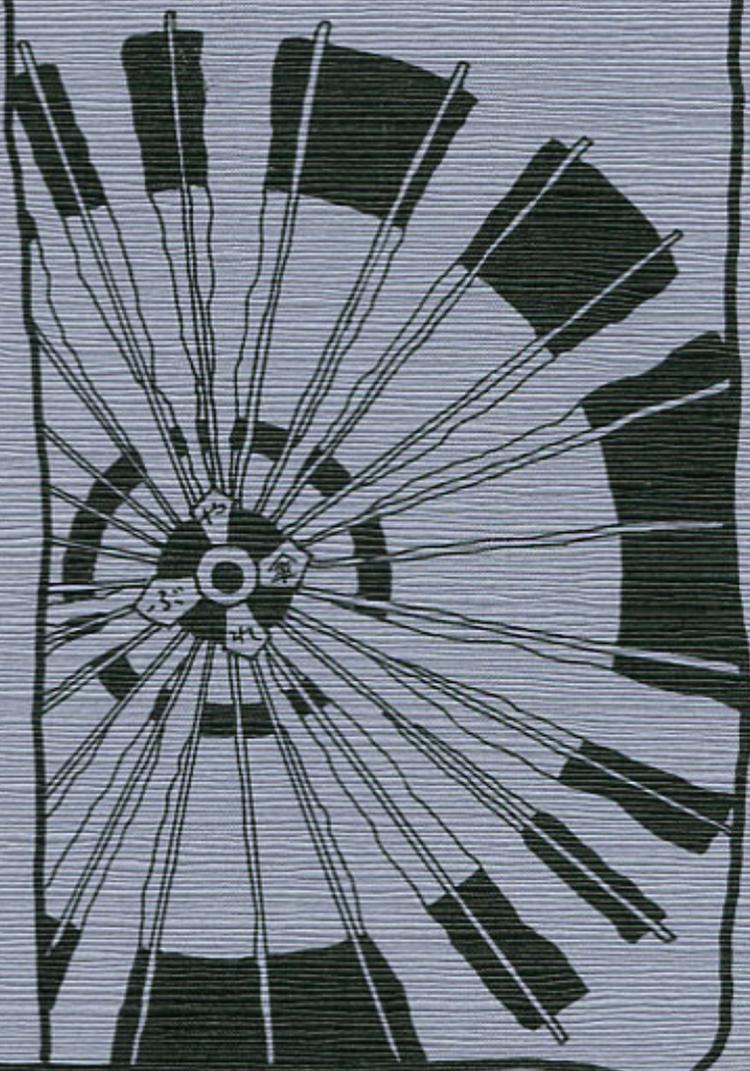


やぶれ傘



七十八号

二〇二四年六月

自転車の細身の車輪麦の秋	根橋宏次
じやばじやばと俎に水初鱉	きくちきみえ
橡の花美術館へと搬入車	丑久保 勲
ゆく道の木下闇へとちぢこまる	大島英昭
花胡桃丸太二本の橋架かる	廣瀬雅男
猫車荷載せて来たりけり	瀬島洒望
葉桜やピルのはさまに川澱み	藤井美晴
鳩鳴いて夏の川辺の夜明けかな	白石正躬
百合樹に花夏雲へ飛行船	安藤久美子
雑木山ほほ下りきり諸葛菜	渡邊孝彦
髪洗ふ乳がん検査終へし夕	小山陽子
花屑のつむじ風立つ日なりけり	國保八江
コックスの響くこゑきく花の土手	有賀昌子
創業は昭和の初め柏餅	久世孝雄
田植ゑあと畦切つて水入れにけり	石原健二

抄 集 句 傘 れ ぶ や
選 夫 紀 崎 大

春分や曇りのち晴れまた曇り	松村光典
夏つばめ軒先低き漁師町	忽那みさ子
卯の花やうすずみ色の雲厚く	齋藤朋子
昼顔の蔭にボールの隠れけり	武石京子
スイートピーばかり咲かせる母卒寿	武田紀久
入口で草餅を売る陶器市	時田義勝
峠より見下ろす花の雲かとも	野口朝世
桜草まつりの空にグライダー	松本正生
芍薬の今年は六つ咲きにけり	森美佐子
春光の土手より眺め草野球	山本千夏
辛夷撮る屋根の上なる空入れて	青谷小枝
船名の次第に見ゆる春霞	秋山信行
目札を交はす小径や花水木	浅嶋 肇
新聞の隅のクイズや梅雨に入る	天野美登里
春嵐どこかに何か当る音	岩藤礼子

夏の川

白石正躬

水盤の籠のはく水温みけり
青き踏む足の川風さばきつつ
秩父嶺の見えて渡し場暮れかねて
佇んで聞くとなくきく雉の声
雨樋にペンペン草の咲きにけり
落葉松の芽吹き淡きところかな
暮れかぬる川辺の石に腰掛けて
薯に土寄せ終はりたり春惜しむ
夕風に蚩袋のかしぐこと
鳩鳴いて夏の川辺の夜明けかな

飛行船

安藤久美子

花筏ゆるりと神田川をゆく
喫茶室ひとりの午後に花吹雪
桜しべ降るをちこちや潦
ビル群と飛燕の空のはてしなき
諸葛菜有刺鉄線守る空き地
リラの花電話工事のながながと
古希の身をほんのひとときふらここに
石鹼玉吹いて囚はれ人となる
百合樹に花夏雲へ飛行船
薄暑光ライオンの背に虎の背に

すかんぽ

渡邊孝彦

タクシーを待つ列にゐて春の月
さへづれり小櫓の雑木山ゆけば
すかんぽの原といふほかないほどに
だしぬけに小綬鶏のこゑ聞くふもと
道順を訊きし通りに来て花見
雑木山ほぼ下りきり諸葛菜
花冷えの町や洋菓子店に寄り
起き抜けの窓に朝の若葉かな
崖下の道に白檉落葉かな
老鶯や走りて消ゆる池の波

春の夜

小山陽子

目的の駅はそろそろ春眠し
春の夜の生家の辞書に微香かな
ポケットに去年の紙や春コート
フライパン洗はざるまま昼寝して
葉柳や鳩の五六羽じつとして
旧友はサングラスして髪伸びて
地下足袋に法被を羽織りアイスティー
懐メロをジャズアレンジでビヤホール
髪洗ふ乳がん検査終へし夕
夏の夜のおでこの触り心地かな

つむじ風

國保八江

往還の車の音と嘯りと
花屑のつむじ風立つ日なりけり
行きずりの小さき杜の山法師
椽の花農機具小屋のトタン屋根
雉の鳴く裏山に日の落ちにけり
すつと立つ脚の長さや更衣
雨ながら雲間に日差し白牡丹
じやがいもの花の日向に子を降す
川原へと土手を伝ひて紋黄蝶
築地塀の崩えたる辺り花茨

花の土手

有賀昌子

種薯植う切り口すこし斜めにし
あたたかや湾を眼下に足湯して
金木屋の根元で猫の眠りけり
本殿の切妻屋根に花の雨
花の雲城の天守を隠しけり
ハングライダーと鴉一羽の春の空
コツクスの響くこゑきく花の土手
黒髪のさらさら茅花流しかな
外壁に架かる足場や長春花
池尻に寄するさざなみ夏鶯

柏餅

久世孝雄

花屑を巻きあげてゆくベンツかな
ゆつたりと桜湯ふくみ式を待つ
おおでまりこでまり風に弾みけり
万歩計一万五千の花疲れ
餌を与え取つて返すは親燕
竹の秋粗壁小屋の耕耘機
仕方なく尾を振る犬や春の昼
群生のたんぽぽなべて絮となり
春深し数多の亀の甲羅干し
創業は昭和の初め柏餅

田植糸

石原健二

梅雨寒し苗隠すほど水入れて
日の暮れの垣根の下に墓の待ち
芍薬の花咲く庭の静かなる
手から落ち死んだ振りする天道虫
田に映る森の茂りや鳶の影
田植糸あと畦切つて水入れにけり
恋ふるごと雉が高鳴く杉木立
田の横の土手の菖蒲が境にて
山裾へ続く白さや蕎麦の花
草刈の手を休めれば村静か

ふらここ

松村光典

交番の脇のこぶしの開きけり
春分や曇りのち晴れまた曇り
花の屑風の流れをそのままに
穏やかに空晴れあがる花いかだ
花びらの薄きみどりの芝飾る
ふらここをベンチ代はりにして坐る
葉桜となりてより日の過ぐるま
初めての夏日の空に昼の月
若楓ギターの響く昼下がりに
公園の緑蔭をすぎ芝に出る

黄水仙の区切りし畑土黒く
 豆腐屋のチャルメラ流る春の暮
 土手上に缶拾ふ人菜摘む人
 連獅子のやうに桜の揺れてをり
 朝練の掛け声続く落花かな
 小判草犬の高さで揺れてをり
 巡回の巡査の汗の首筋に

神山市実

初燕雑巾固く絞る時
 花過ぎの畳に伸ばす手足かな
 先生のを来てをり軒に燕の子
 向き替へて糞落しけり燕の子
 ひとしきり静かなりけり燕の子
 緑蔭へ運びれてゆくトランペット
 乳飲子の万歳寝する夏座敷

上林富子

菊地葉子

塗替への足場に乾く春の泥
揚雲雀野を割つて建つ菓子工場
春深しエスプレッソの泡舐めて
行く春やハンカチの木と教へられ
自転車は下り坂へと夏きざす
山道をむづかる子ども桐の花
風に追はれて水動く植田かな

忽那みさ子

単線の待ち合はす駅散る桜
タンカーの喫水浅し初つばめ
急行過ぐあとには波音豆の花
杉菜生ふいくら抜いてもまた杉菜
豆の花盛りの白さあふれけり
あふり波角組む蘆の見えかくれ
夏つばめ軒先低き漁師町

◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	平林寺	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

8月17日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR武蔵野線北朝霞駅改札口。隣接の東武線朝霞台駅前からバスでいきます。吟行地は平林寺。句会場は武蔵浦和コミセン(JR埼京線武蔵浦和駅前)。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ